

p.3. に引き続きダビンチを用いた手術を実施する診療科とアンギオ室についてご紹介します。

C棟 (機能強化棟) でのダビンチ手術 2

周産・女性診療科 | 手術の低侵襲化と術後 QOL 向上に努めています

2018年から婦人科疾患に対するロボット支援手術が保険適用となりました。施行可能な術式と対象疾患は以下の通りです。

- ①ロボット支援下子宮全摘術：子宮筋腫・子宮腺筋症などの婦人科良性疾患
- ②ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術：早期子宮体癌
- ③ロボット支援下仙骨固定術：子宮脱などの骨盤臓器脱

上記疾患であっても、腫瘍の大きさや性質、患者さんの合併症により適応外となる場合もあります。②においては、組織型が類内膜癌 Grade1-2、筋層浸潤 1/2 未満、リンパ節・遠隔転移がないことが必要です。いずれの術式でも、手術前日入院、術後 4 日目退院が標準的な入院スケジュールです。

ダビンチ手術の特徴として、創が小さく、出血量が少なく、術後の回復が早い、そして繊細な操作が可能というメリットの他に、肥満の患者さんに対しては、従来の腹腔鏡下手術と比べて良好な視野が得やすく、特に有用性が高いということがあります。

当科では、Intuitive Surgical 規定のトレーニングを受けた術者資格を有する腹腔鏡技術認定医 2 名、婦人科腫瘍専門医 2 名が手術を担当しています。最新の技術により、手術の安全性向上と低侵襲を実現し、患者さんの体にかかる負担の少ない手術を実現してまいります。(周産・女性診療科 大島 乃里子 講師)



A棟手術室でダビンチによるロボット支援手術を行う周産・女性診療科の医師

ハイブリッド手術室と脳神経血管内治療

C棟 (機能強化棟) にも設置される「アンギオ室」での脳や脊髄、頸部の血管の病気や腫瘍などに対するカテーテル治療についてご紹介します。

血管内治療科 | 安全で患者さんに合ったきめ細かなカテーテル治療をしています

血管内治療科は、脳や脊髄、頸部の血管の病気や腫瘍などに対し、カテーテルを用いて治療を行う診療科です。Siemens 社の ARTIS icono D-Spin という最新の脳血管撮影機器を駆使して、高度で専門的な治療を行っています。

当科では未破裂脳動脈瘤に対するカテーテル手術が最も多く、動脈瘤の部位や形状を考慮して個々の患者さんにとって最適な治療を提供



工事中のC棟 6階手術室

しています。特に、今まで治療が難しかった大型脳動脈瘤に対し、最新の治療方法として注目されているフローダイパターステントを使用した手術を数多く行っております。その他、希少疾患である硬膜動脈静脈瘻や脳動脈奇形に対しても豊富な経験治療実績があり、詳細な画像診断にもとづいた専門性の高い治療を行っています。



また、救急疾患に関しては、急性期脳卒中を 24 時間 365 日体制で受け入れており、随時、血管内治療を行うことが可能です。特に、急性期脳梗塞に対する血栓回収療法などを積極的にを行っています。

このように最新の血管撮影装置と技術を組み合わせ、個々の患者さんに合った安全で効果的なカテーテル治療を行っています。(血管内治療科 平井 作京 講師)

医療連携だより



東京医科歯科大学病院の理念と基本方針
●理念：世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸福に貢献する
●目標：1. 患者中心の良質な全人的医療の提供
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 高度先進医療の開発と実践
4. 人々の信頼に応える社会に開かれた病院

医療連携支援センター TEL: 03-5803-4655 (地域連携室) 医科 FAX: 03-5803-0119 予約専用 FAX: 03-5803-0285



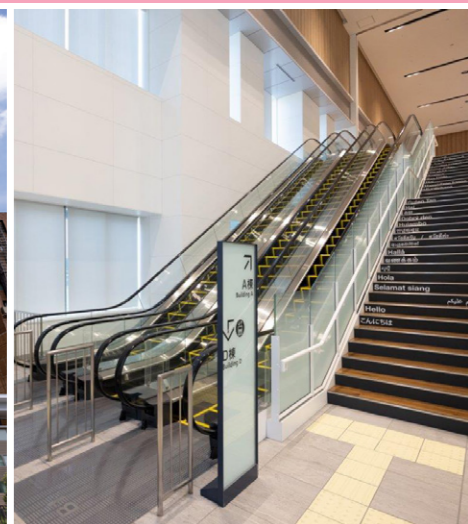
田村センター長のご挨拶



東京医科歯科大学病院 医療連携支援センター長 (病院長補佐) 田村 郁 (たむら かおる)

JR 御茶ノ水駅から徒歩で見える新しい建物、いわゆる「C棟 (機能強化棟)」が、いよいよ稼働いたします。C棟は、高度急性期医療提供機能の強化・充実に目的として構想され、ERセンター、手術室、集中治療室、材料部、医療情報部などが集まり、病院の機能を強化する棟となる予定です。C棟は免震構造で、災害時の拠点となる設備を備えることにより防災機能強化を図り、巨大地震発生時にも医療を継続できるようになっております。この医療連携だより 32 号では、C棟の最新鋭の手術室で行われる、ロボット手術、ハイブリット手術、さらにアンギオ室で行われる手術などをご紹介させていただきます。

C棟 (機能強化棟) のCは Communication (交流) のCでもあります。より多くの患者さんに東京医科歯科大学病院での世界最高レベルの「トータル・ヘルスケア」を受けていただけるように、地域の医療機関の皆様との Communication を更に大切にしていきたいと思っております。今後ともご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



TOPICS

- 医療連携支援センター長のご挨拶
- C棟 (機能強化棟) 2023年10月1日オープン
- ハイブリット手術室とハートチーム
- C棟 (機能強化棟) でのダビンチ手術1 / 消化管外科&泌尿器科
- C棟 (機能強化棟) でのダビンチ手術2 / 周産・女性診療科
- ハイブリッド手術室と脳神経血管内治療 / 血管内治療科

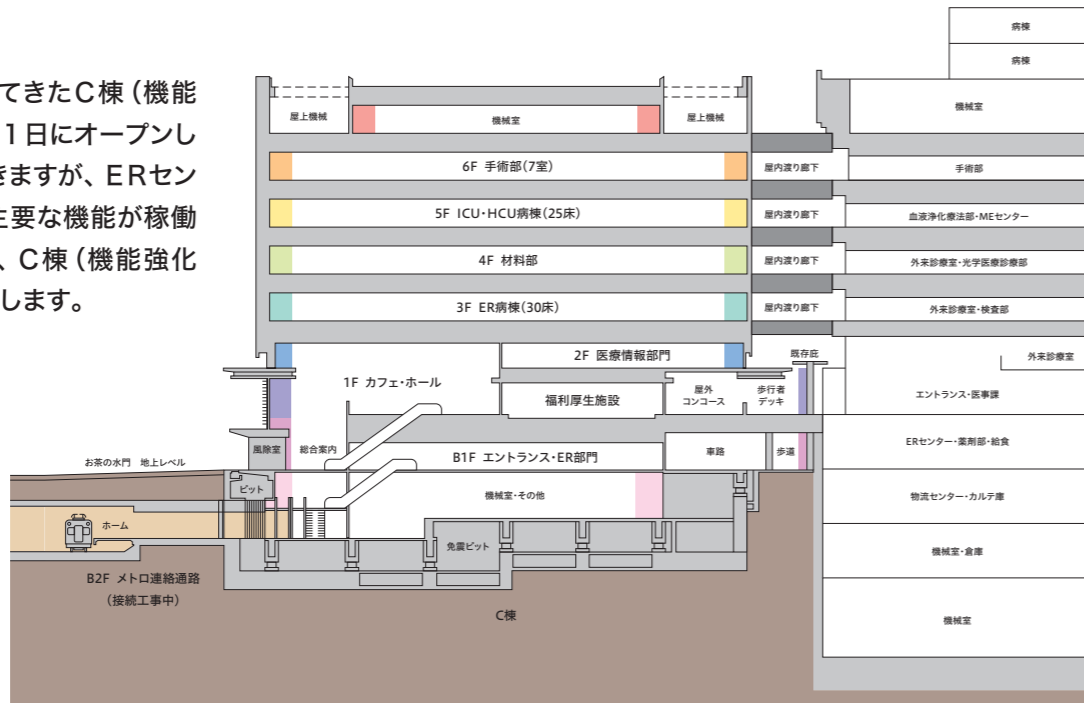
医療連携支援センターの役割

- 紹介患者さんのスムーズな受け入れ
- 医療機関からの初診事前予約受付
- 入院・退院患者さんとそのご家族のサポート
- その他の医療・福祉相談



C棟 (機能強化棟) 2023年10月1日オープン

約3年をかけて工事を行ってきたC棟 (機能強化棟) が、2023年10月1日にオープンします。まだ一部の工事は続きますが、ERセンター、手術室、ICUなどの主要な機能が稼働します。連携病院の皆様にも、C棟 (機能強化棟) の魅力をいち早くお伝えします。



C棟 (機能強化棟) は、当院の基本方針として掲げている、「高度急性期医療提供機能の強化・充実」、「病棟の更なる高回転化」、「難病治療体制の充実」という3点を実現するために建設しました。地下2階、地上7階建てで、延べ床面積は約15,000㎡です。地下2階に強力な免震ピットを設置することで、防災機能の強化を図り、巨大地震発生時にも医療を継続できるように設計されています。地下1階にはERセンターがあり、処置室7室、最新鋭のCT機器を擁したER手術室、重症初療室2室があり、従来のERセンターと合わせると都内最大級の収容力を誇るERセンターとなります。また3階にはER病棟

(30床) もあります。4階は医療器材の洗浄、滅菌管理を行い、有事の際にも十分な医療品を提供できるように備蓄・管理を行う材料部があります。5階のICU・HCU病棟には、25床の完全個室 (うち4室が感染症対応) があり、6階の手術室には手術室が7室 (うち、ハイブリッド手術室が2室、バイオクリーンルームが1室)、7階屋上には、太陽光発電のソーラーパネルやグリーンスペースが設けられています。2階の医療情報部や1階の福利厚生施設、地下2階のメトロ連絡通路などは、10月以降も工事が続きますが、高度急性期医療提供機能を強化・充実させる施設のほとんどは10月より稼働します。

当院では、さまざまな診療科でロボット支援手術を行っています。C棟 (機能強化棟) でも最新型のダビンチを用いた手術を実施します。

C棟 (機能強化棟) でのダビンチ手術 1

消化管外科 | 手術の低侵襲化と術後QOL向上に努めています

消化管外科 (食道外科・胃外科・大腸肛門外科) では、食道癌、胃癌、大腸癌、鼠径ヘルニアに対しての手術支援ロボットを用いたロボット支援手術を積極的に行っています。食道外科では、患者さんに手術前と変わらず元気に生活を送っていただけるよう、手術の低侵襲化と術後QOL向上に努めています。ロボット支援手術を活用することで反回神経麻痺を減らして、摂食嚥下機能・発声機能を維持できる手術を実践しています。胃外科では、そのほとんどをロボット支援手術で行っているだけでなく、近年増加している食道胃接合部癌の手術に強いことも特徴の1つで、患者さんのQOLを考慮した術式や再建方法を食道外科と協働で行っています。手術成績も安定しており、胃切除後の術後在院期間中央値は7日となっています。大腸肛門外科では、結

腸癌、直腸癌、いずれにおいてもほぼ全てでロボット支援手術を行っており、7日前後の短い術後在院日数と極めて低い合併症率を誇っております。また直腸癌においては、ほとんどの患者さんが化学放射線療法を術前に行わず、短期間での治療完結のなかで、高い肛門温存率と根治性の両立を実現できています。(大腸・肛門外科 網笠 祐介 教授)



A棟手術室でダビンチによるロボット支援手術を行う大腸・肛門外科の網笠祐介教授

ハイブリッド手術室とハートチーム

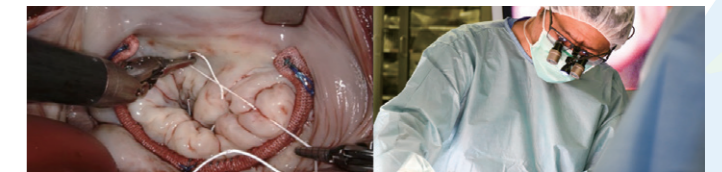
C棟 (機能強化棟) のハイブリッド手術室とハートチームについてご説明します。

心臓血管外科 | いよいよTAVIが始まります!

TAVI (タビ; 経カテーテル的大動脈弁置換術) が、いよいよ東京医科歯科大学病院で始まります。TAVIは大動脈弁狭窄症の患者さんを対象に「切らずに治す」治療として注目されています。マスコミでは心不全を呈する患者さんの急増を指して、「心不全パンデミック」という言葉が聞かれますが、大動脈弁狭窄症はその主な原因です。高齢でハイリスクな大動脈弁狭窄症の患者さんを低侵襲で治療できるTAVIが選択肢となることは、とても喜ばしいことです。患者さんにも、通常の開心術や低侵襲 (MICS) 手術と比べた上で、選択していただくことも可能です。

10月から本格稼働するC棟 (機能強化棟) の目玉として、ハイブリッド手術室が完成しています。TAVIを可能にするのは高度な機能を備えたハイブリッド手術室です。精密なカテーテル操作が可能で、かつ開心術にも対応しており、日本で最も新しいハイブリッド手術

室になります。TAVIの成功のためには最新のハイブリッド手術室だけでなく、内科、外科、麻酔科、そして手術部が「ハートチーム」として一体となるのが重要です。東京医科歯科大学病院では最高のチームワークのハートチーム医療を受けることができます。(心臓血管外科 藤田 知之 教授)



ロボット僧帽弁形成術の様子 (左上)、手術中の藤田知之教授 (右上)、Edwards社のTAVI弁「Sapine Ultra」 (下左)、Medtronic社のTAVI弁「Evolut FX」 (下右)

循環器内科 | 治療室増加で大幅時短と迅速な緊急対応が可能に

ハイブリッド手術室は血管造影や心臓カテーテルのためのX線画像診断装置と開胸手術などにも対応する手術室が一体となった革新的な設備です。近年、心血管疾患に対する治療においては「ハートチーム」として、外科的手技と内科的手技を組み合わせる治療も求められており、このようなニーズに応えるため、2つのハイブリッド手術室が新設されました。特に真価を発揮するのが日進月歩で新しい技術が開発されている弁膜症治

療です。経カテーテル的大動脈弁置換術は重症大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療で、日本に導入されて約10年になりますが、弁の改良や施行技術の進歩により安全な手術となっています。重症僧帽弁閉鎖不全に対する僧帽弁クリップ術も導入予定です。また、当院で以前から施行している左心耳閉鎖術、デバイス植え込み術、リード抜去術、大動脈ステントグラフトなどの手術も最新の設備により確実・安全に施行が可能となります。不整脈に対するカテーテルアブレーションは、治療室の増加により手術待機時間の大幅な短縮、緊急症例への迅速な対応が可能になります。また全身麻酔下での治療、難症例に対する心外膜アブレーションもより積極的に行う予定です。(循環器内科 笹野 哲郎 教授)



工事中のC棟6階手術室

泌尿器科 | ダビンチの専門トレーニングを積んだ認定医によって手術を行っています

泌尿器科領域では、他領域に先んじて2012年にロボット支援前立腺全摘除術が保険適応となったことを皮切りに、現在では多くの定型手術がダビンチによるロボット支援手術の保険適応となっています。当科では2017年よりダビンチを導入し、前立腺がんに対する前立腺全摘除、腎細胞がんに対する腎部分切除または根治的腎摘除、膀胱がんに対する膀胱全摘除、腎盂尿管がんに対する腎尿管全摘除、骨盤臓器脱に対する仙骨陰固定術を行っています。現在は月に約15件のペースでダビンチ手術を行っており、年々件数は増加傾向にあります。今後、他の術式についても順次適応を広げていく予定です。当科では他の低侵襲手術にも豊富な経験を持ち、ダビンチの専門トレーニングを積んだ認定医によって手術を行っています。手術に至るまでの診断精度にも力を入れるとともに、ロボット支援手術の適応とならない方にも、ミニマム創手術や腹腔鏡手術など他の低侵襲手術の選択肢を提供することも可能です。高齢化に伴って泌尿器疾患は増加傾向にあり、低侵襲手術が必要となる患者さんも増加しています。今

後も最新の医療技術を取り入れ、患者さんへの負担が少ない治療を提供してまいります。(泌尿器科 田中 一 講師、藤井 靖久 教授)



A棟手術室でダビンチによるロボット支援手術を行う泌尿器科チーム